

---

# 研修医プログラムを修了して

---

## 研修医プログラムAを修了して

歯周診断・再建学分野 大学院1年  
小 泉 瑠 果

昨年度まで新潟大学医歯学総合病院歯科医師臨床研修プログラムAで研修を行い、現在新潟大学大学院歯周診断・再建学分野へ進学いたしました、小泉瑠果と申します。歯学部ニュースの執筆のご依頼を受け賜りましたので、僭越ながらご拝読いただけると幸いです。

臨床研修プログラムAでは、研修歯科医は1人の担当医として患者を担当し、1口腔単位での治療を行います。昨年度の臨床研修プログラムAの研修歯科医は10名と少し人数が少なかったため、配当された患者数は約50名であり、その患者の多さに驚きました。最初は戸惑いもありましたが、研修歯科医が少ない・配当患者数が多いならではの経験も多くありました。

まず、配当患者数が多いため、当然診療数が多くなります。そのことにより、齲蝕治療・歯周病

治療・根管治療・補綴治療・抜歯など一般診療を幅広く学ぶことができ、多くの診療数を経て着実にスキルアップすることができました。また、週1回の予診係・急患係を通して、初診患者への問診・口腔内診査をスムーズに行い、急性歯周炎・慢性辺縁性歯周炎の急性発作、冠やブリッジの脱離、義歯破折を主訴に来院された患者への限られた時間での対応について多くの場数を踏むことができました。そして、11月に長崎県にて開催された総合歯科学会では、抄録やポスター製作、ポスター発表、他大学の先生方や研修歯科医との交流など貴重な経験をさせていただくとともに多くの刺激をいただくことができました。

歯科医師臨床研修プログラムでは多くの経験を積むことができ、知識・技術ともに大幅にスキルアップすることができました。このプログラムでの豊富な経験・学びを現在進学している大学院でもしっかりと活かしていきたいと思います。

最後になりましたが、1年間で指導いただいた先生方や同期の先生方、病院の職員皆様に対し、感謝申し上げます。

## 研修医プログラムBを修了して

小児歯科学分野 大学院1年  
本 図 渚

この度、執筆の機会をいただきました、小児歯科学分野大学院1年の本図渚と申します。昨年度まで、研修医プログラムBで研修をさせていただきました。私は、4月から9月まで新潟大学医学総合病院小児歯科・障がい者歯科にて、10月から3月までは、富山県立中央病院歯科口腔外科にて研修させていただきました。

前半の小児歯科・障がい者歯科では、初めて小児の治療を担当させていただきました。患者配当前に、小児歯科の講義と模型実習を受け、小児歯科ならではの治療方法を学習します。また、患者配当後には、診断・治療計画を立てたものをまとめ、指導医の先生方からアドバイスを受け、実際の診療を行います。いざ治療となると、目の前で泣き叫ぶ子供に圧倒される場面もありました。しかし、安心する声のかけ方、保護者の方とのコ

ミュニケーションの仕方など、マンツーマンで指導いただけたことで、少しずつ落ち着いて対応できるようになりました。泣きながらも頑張り、最後は笑顔で手を振って帰っていく姿は、いつ見ても胸が熱くなります。

後半の富山県立中央病院は、先生方、衛生士さん、技工士さんが非常に温かく、日々笑顔が絶えない環境であったなと感じます。私は特に埋伏智歯抜歯を多く経験させていただきました。最初は、慣れない外科処置で戸惑うことも多く、落ち込む日もありました。しかし、指導医の先生の手厚く、的確なご指導の下、着実に成長することができました。他にも、病棟管理や全身麻酔下での執刀などもさせていただきました。また、2 jawのオペを初めて見たときは衝撃的でしたが、顎変形症が改善し、患者さんの喜ぶ姿を見たときは、外科処置のもつ大きな力を感じました。

この1年間で得た経験は、今後の糧となる貴重な財産となりました。最後になりますが、ご指導してくださったすべての方に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



富山県立中央病院にて（筆者は下段右から2番目）